

第42回北海道ジュニア 体操競技選手権大会 男子Bクラス個人総合で第1位!

どうとくりょうま
堂徳 椋馬 さん



↑体操で鍛え上げた力こぶ
あん馬の練習風景 →
←1位の記念にコーチと撮影



10月13日に江別市で開催された「第42回北海道ジュニア体操競技選手権大会」で、第1位に輝いた堂徳椋馬さん（西当別小6年）に体操競技への思いを聞きました。

体操をはじめたきっかけ

3歳の時に、近所の公園で遊ぶうちに逆上がりができるようになりました。その後、母の勧めで体操教室を見学してみると楽しそうだったので、4歳から体操を始めました。

体操をするために当別へ

体操を始めた頃は両親と兄・妹と函館に住んでいて、市内の教室に通っていました。体操を始めてすぐに大会へ出場するようになり、2度目に出場した大会（当時は年長）では2位になりました。体操の練習は、次にどんな技ができるようになるのかと思うと、ワクワクしてとても楽しいです。練習を重ねるうち

に、「もっと難易度の高い技が習得できる環境で練習がしたい」と思い、北海道最大規模の体操教室へ通うために、小学5年の夏休みに函館にいる家族と離れ、僕だけ当別にある祖父母の家に引っ越してきました。現在は、祖父などに札幌市内の体操教室まで車で送迎してもらっています。

ライバルと切磋琢磨

日曜を除く毎日、午後5時から9時までワクワク楽しく練習しています。「ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒」の6種目を練習していますが、得意なのは「つり輪」で、特に倒立が得意です。「あん馬」は好きだけどあまり得意ではないのですが、10月に1位を獲った北海道大会では、あん馬できれいにスピード感がある演技ができたことが総合得点につながり、良かったと思います。体操教室での練習では4人（僕を含めて小学6年が3人、小学5年が1人）にコー

チが1人ついて、個人のレベルに合わせた練習をしています。練習メンバーの中に僕のライバルの子がいるので、練習の時から良い刺激を受けながら頑張っています。

将来は憧れの萱和磨選手のように、技を正確にきれいにできるようになりたいです。そして、難易度の高い技を次々と習得し、いつかオリンピックにも出場したいです。

堂徳さんは、7月14日に江別市で開催された「第58回北海道体操競技選手権大会」で4位に入賞したことから、取材後の11月16日・17日には2度目の全国大会、「第14回全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会（新潟県開催）」へ出場しました。「大会では全国レベルの選手の演技から多くのことを学んできました。来年からは、より技の難易度の高いクラス（Aクラス）になり、中体連もあるので楽しみです」とお話ししてくれました。（11月6日取材）